

古今著聞集

十五

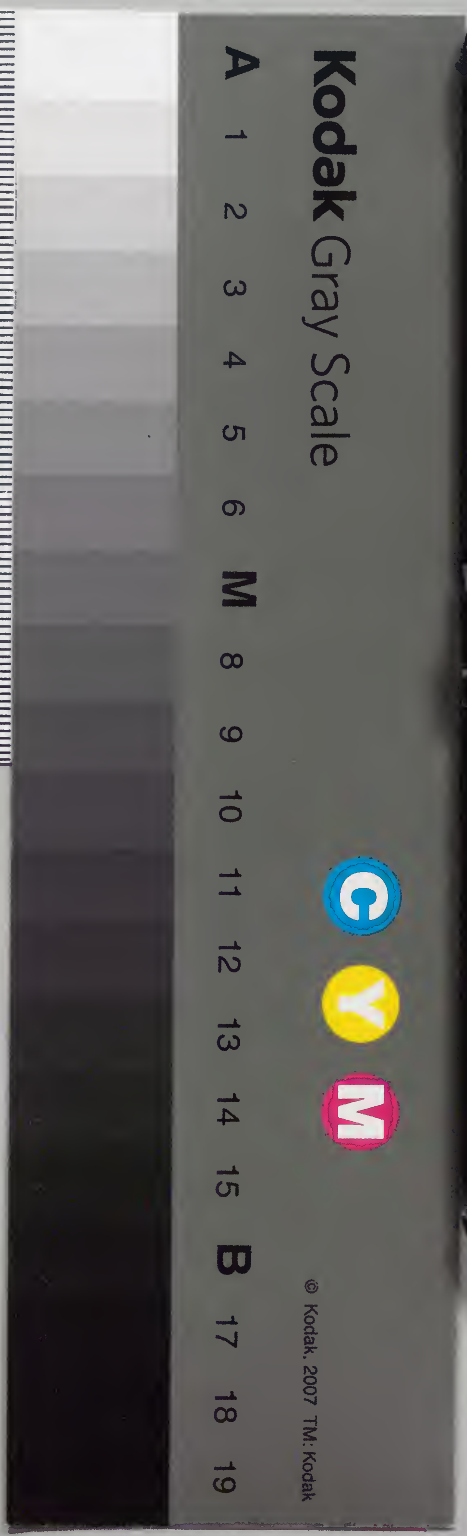
真

太政官文庫		
和	三二	三三
書	三三	三五
門		
類	一	五
冊	架	函

內閣文庫		
和	三	二
書	二	三
類	一	五
冊	架	函

和書

內閣文庫		
番號	和	32338
冊數	15	(11)
函號	210	143



岡
415

古今著述集卷之十五

有執者

宿執者天性之所深著也文武以下諸雜

藝稟其道思其名之者雖臨老難奇指人

皆有癖不能缺羅是又前業之令然歟

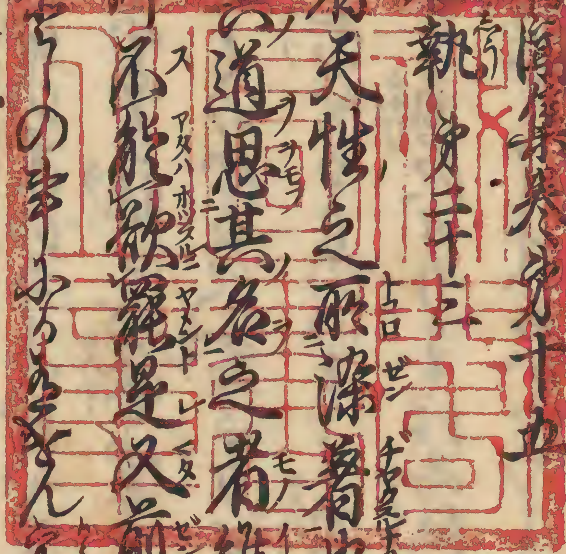
いひまればの事少なきん湯陰よて競るる

多るは猶助信のりざりたふさるゆゑとて

あびくつらうまつりまねたりあまけぬのりり

鞭の切替とて時の正室おしりせればあのみまひん

まげよとあまめりて成作をせれば助信の

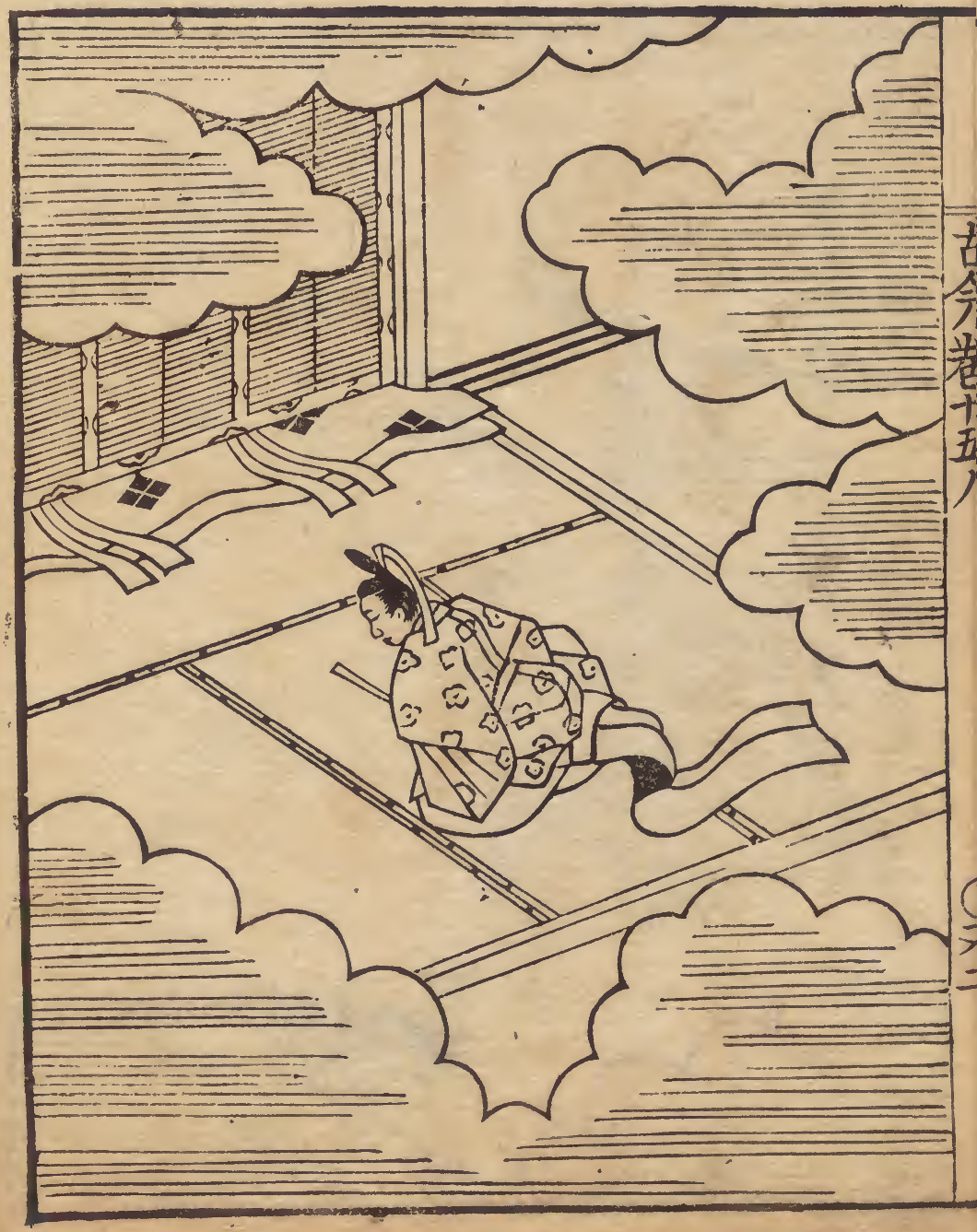


古今著述集

十五

今宵か持ゆらちてゑるんとやあまはけいといん
 とやあまあやうとあひさうびとさうたれたれだ
 助すけななとてくちとてあねあねとてさうたれたれだ
 せうきとりのそなたを打あてく鞭むちをわてしうきとれ
 助すけななとてたねけく揚あぐるるとたはまのん物ものとて
 あうあうとて海うみが又またたとあげあされし助すけななあは
 てあぐてあまより命いのちにうとてあまのん物ものとて
 ううとてあまのん物ものとてあまのん物ものとてあまのん物ものとて
 さあにゆめへゆめへ目めのしに二ふた度どゆりけるあまの
 くくのあまのん物ものとてあまのん物ものとてあまのん物ものとて





て助なぐさ近きよあひいりての目なるべふぬ
 義保以後の難^{けのた}の紀も助なぐさ海^{うみ}の^{うら}は
 足^あつてゆりされが助なぐさおん^{おん}の^の一^いつ^つ海^{うみ}
 近きとくさあやまそ^そ海^{うみ}の^のあ^あひ^ひぐ^ぐあ^あわ^わら^らい^い
 平^{ひら}賀^が佐^さよ^よら^らは^は海^{うみ}も^も宇^う治^ぢな^なす^すま^ませ^せ給^たま^まり^り
 りとあり^りまた^{また}間^まの^の結^{むす}る^る海^{うみ}の^の人^{ひと}は^は美^みの^のと^とた^たり^り
 あ^あい^いり^りそ^その^の間^まに^にあ^あを^を結^{むす}と^とそ^そを^を結^{むす}な^なす^す
 大^{おほ}敷^{しき}の^の常^{じょう}あ^あて^て付^けて^てお^おは^はな^なら^らい^いと^とそ^そを^を結^{むす}と^とや
 は^は執^{しつ}の^のれ^れと^とあ^あは^はる^るあ^あま^まや
 敷^{しき}山^{さん}千^{せん}子^し院^{いん}小^{せう}庵^{あん}結^{むす}と^とい^いは^は傳^{でん}と^とあ^あり^りつ^つり^り

法苑珠林とよきまて物亦は宿てしるし人の
 著よんつり没後よの墓亦は宿とて物亦
 類よじまよとてしつり改葬して墓亦
 他亦たしつりする時も於此のまよとてしつり
 多りまよの時つり執一まれる亦は没後ま
 ねあひいとまよねし善悪よつぎえ執一あ
 りん生かるまよつねまの御ふしえ
 同西塔の傳亦久もい定しつり併一是つ七日
 ぶたよみたるまよあられ物よこ又善悪と云
 傳亦多りまよも多年法苑珠林神して傳あり

きりる紀伊由完背山ふしつりて宿しつりする
 そ人ハんまよて法苑珠林とよまよのえつり一
 續法苑とて物亦まよねあや一とて物亦ま
 程亦つるよ年序つる白骨わりのまよも教せ
 して西解これつらありまの齋齋北中亦ま
 相わりの善悪齋齋亦向くま固結と向をれど
 相あつてつらねられ教山の傳亦まよも
 いひま傳りののるげ山よありてまよとあま
 法苑珠林亦都と傳亦まよと教をねつて生
 分りまよとつりふつりまあられ宿亦生つる

とし尤も教と満満せんがう先よ於彌を海へ
 今年よとぞふよまとりを海に境率内境
 小生は命といひたりき密に事とせし礼誼
 と解してさうあまのあまのあまのま先し由
 靈是の祀おもく海の山たよびえんせんは彌の
 齋齋あまのあまのあまのあまのあまのあまの
 のまよ昔年の執ふひるわく昔あまのあまの
 小うた執してさうあまの事あれ
 堂信亦抱へ抱く若未ぬあまのあまのあまの
 さうどのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

遷化してさうあまのあまのあまのあまのあまの
 白河院の正時時資成多うて此持事二神丸
 小き極極極利あまの秘事さうくさうく物定
 ままゆは時資再と解してあまのあまのあまの
 當時さうあまのあまのあまのあまのあまの
 秘とくさうあまのあまのあまのあまのあまの
 ゆそつあまのあまのあまのあまのあまの
 ずあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 のまひの秘とたしてさうあまのあまのあまの
 物小あまのあまのあまのあまのあまのあまの

別表はくめんゆゑにたまたま任ぜりしにたり
 とも後二帝丸が露さうりてやうくありぞきり
 もれハ伯耆あまらるるてみざるらん
 彼の神のせうくりじきるしくやんそのよしと
 守りて時實が先年のまゝおひやうく
 おもひくゆりとぞゆるりまきり
 尚礼法が露を中流基礎に夜来
 年成賜りせり中流と光孝ふつきて
 とあるをえんが一事ゆゑに
 ゆるり起結と書え候へり
 地志

つきえ細藤利とつてふかり
 日傳ハひんてふりや起結文
 うみと院ふやれど初定ふ
 へんあく二帝丸がまは
 せだてえ道のしらめて
 あめのいみどき半とて
 念やうゆてえく秘
 ぬめも秘伝の宿執
 尚書ハ秘傳がび
 ひふ事りたりも
 信臘の唱前

今之夏志のつめんとしひきねが時元いふごとくふ
まけきバヤウくおとあそしあきり入滅の時も被風
あそあそく三帖せんとうのふおねふ逸せん化けしはり

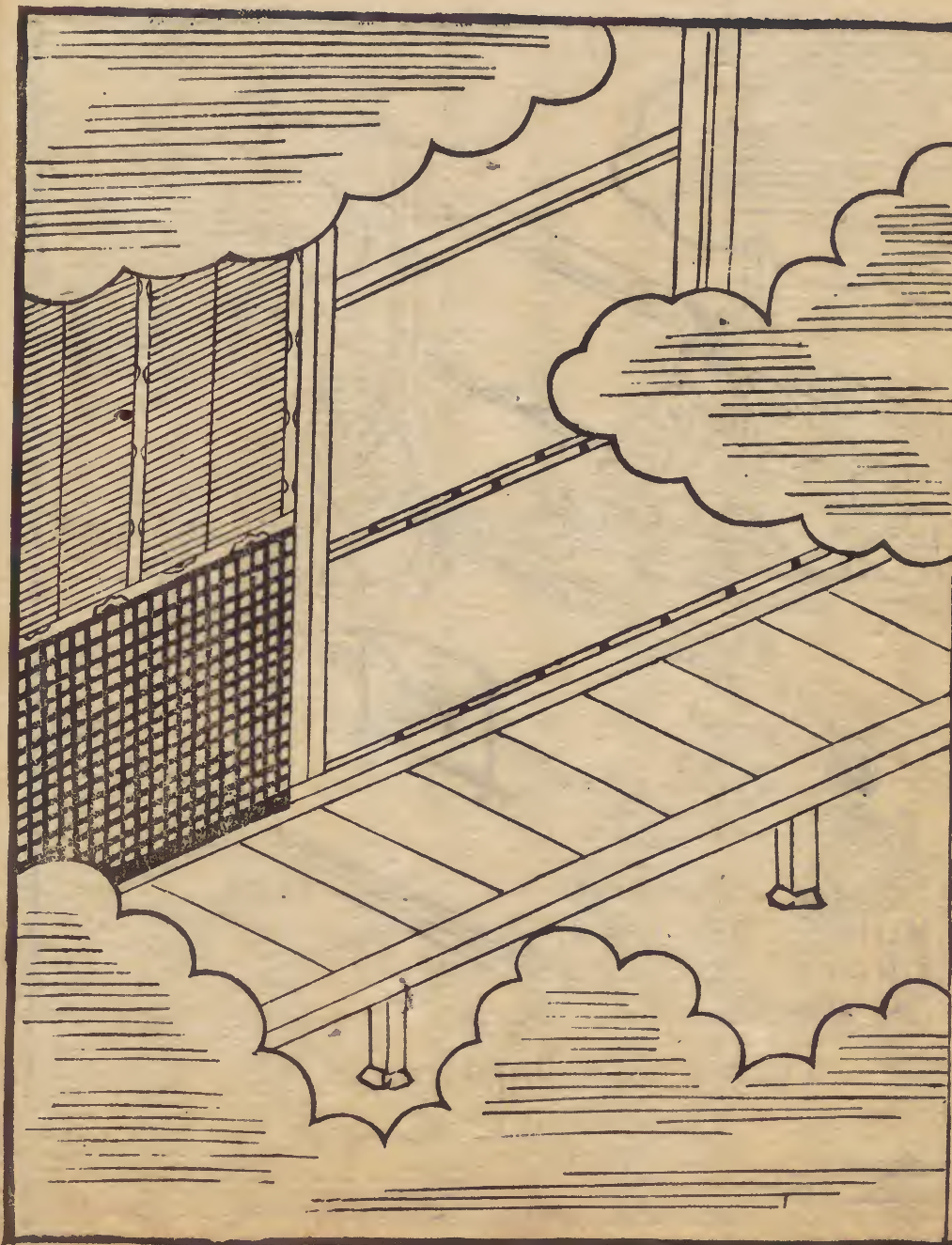
保延年甲より甲辰志大匠のたお誼志のた書入
たおおめてわひあふびもひもろ程よに平四年五月
廿八日お志大匠おあめし結ひねめて年月とさしあ
保元の礼いそそえ程あく志大匠よりせればお志大匠の
世おあえいと目せくおりし海づの程もつる程あ
病つとそわやうくおれしきれで保元二年七月十日
お志大匠く善ぜん持ぢ池ぢふとつり結ひつるに善ぜん保ぼ元げんの

とてぬとそあ結つるもろ程人お位一人信一人由軍
の志のふうらありする相志府今たのどあうひはあ
ありするたあ子れ大炊おあひの門かど志府のたおめており
甲よりよそ中後志府今たあふし結ひつるに具書
あふがれたた志のたおあそひうくおあらびもり
けりおあ方の病よ志大匠ののらおあそしあはれ
あおあそもあふびたりそれよりおあめしあはれ
おあめらげ結くおつとくおりまはふおあひ指さし籍せきよく
あへあらんより程あひあつてあはれどあつてはあ命
いそえゆるばそあしあつとせしあはれが程あつた

また物々として右府の方おのひくうり給えれば大御
 存まことよりきて物々礼者ありて三保大御を仲お
 せくありまうする門のりちと送りやえれり幸
 二あぞ加のひあるべた府の方お花よか園れたる所の御
 ゆづりあてち府の道所とて大御よお給ひはる
 とうみまをよまされくうにまがひやされは
 わくれよまがくた事へ

仁平三年の路より考けん徳の方お病をまうりするに
 次の年れ二月十一日お妙善徳の方お寧お仲おめてお
 一御も徳がさあひの為おはあふりてせ給ひ





ころろに孝情病状もよけくもこつりて未だ
 らば苦病志づく休ぬ一とやありかれば冷人
 て管陰まをり妙も池ぬん洗器と弾一はひま
 孝情たひらん神あいらあ系あいらなりとぞやとるや久ぬあそ妙も池
 ぬらうとせ給ひよとりのあをれおなう一ありも妙も池
 て孝情うしひをうしひほまき病とまの念仏をどけしとや
 だまに宿執よひねくも成ゆかごりさるそ
 わられおわれ系執とおあつひの給なるんぬま
 人のとよりこつりてのぐれが給なりと死おあ
 てらぬべくべくじ一筆無びが死るを死

古今

七

て後あぐく備後とらぶらうとて幸ととぞ作りける
無保二年正月小治家同日申す八十ありて
うせ給ひぬありと後二重院は附みおとこの作り
給ふる備後備後の院と妙善院あり執向ありけるに
あぞやわのあとおく養をせせまのりする成おとこの
由なるはたお家の山崎息ありの宗補と書れりて
上失あり人のいれとわやとてひらとて山院はれ
ハそのうと習ひ一道理くうとて養一給りてそに
わらわれし幸きありたりとておとこの由なる
肉もそは備後小治のひらとていれりかくひらとて

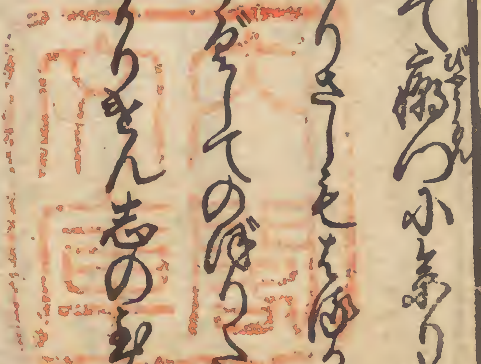
ふいなりと養一あをせ給たり世成てそ生給くと
たき厚どの執心ありりまんそいおつとておと
わがえりき

おと備後よ小治のせんと一山崎おとをとり備後
攝戸のちもきるおと備後一山崎とてまのせより入る
どのうせを給く後よりわらありける時の山崎と
くけくはうとてあせききりそはうとてつら山崎
き法とてきりれりたり揚戸後より善徳のあ
しむとあよび後とつとてまのせとてきりおと
福ありけりその山崎のありたりとてあつた後の山

宿執としてひらき給ふもやねとねんやうなるあはばその
みよのまぶしむしほしめらぬ又は事年のととのまの
へ何れはよしむしほし

大監物者原れ守光の侍多生の仲あはるる若
めてあんやうなるあはれむしほしむしほしに
かしてぬまへてふりきりきりきりきりきりきり
うけく見ゆあやむしほしむしほしむしほしむしほし
ねぬのねぬのねぬのねぬのねぬのねぬのねぬの
おほのりんとあはれむしほしむしほしむしほし
ねぬのねぬのねぬのねぬのねぬのねぬのねぬの

にきこごころのねぬのねぬのねぬのねぬのねぬの
よ事産とありあはれむしほしむしほしむしほし
とねとねとねとねとねとねとねとねとねとねとねと
むしほしむしほしむしほしむしほしむしほしむしほし
宿執よひんれくあはれ



ねぬのねぬのねぬのねぬのねぬのねぬのねぬの
あはれむしほしむしほしむしほしむしほしむしほし
くれむしほしむしほしむしほしむしほしむしほし
後いむしほしむしほしむしほしむしほしむしほし
大監物者原れのねぬのねぬのねぬのねぬのねぬの

くうをいふるまもれは孝道とてけさくはまきりする
けうて痛^{イタ}もさうだ又さうなるもいづれか
い成焼物のごとくまらで日救つものいなる
かあぐれまうく是のへとすれがやむいしく
トて油^{アブラ}の病^{ヤマト}まそのりさうまげら
とやむいし成あふは怪おぬまけまらぬ
まこれ先^{コノ}後^{ノチ}の流^{ナガ}の暇^{ヒマ}まとぬんごら
うまむのまうだ我んあめく物らへんて
くあんとせあさせめて飯^{イハ}さあづせおへ
まを給ふいへるあさくごりまらへん

かりてあつせ給きり申とて道成おりのせんぬわ
まふあさくぬよん平の口惜^{ウレシ}い
成^ナ中^{ナカ}を物^{モノ}の秘^ヒ為^ナ書^シ故^コ持^チ續^ツ繪^ヱ音^ネ以^ヨ希^キ見^ミ守^モ成^ナ
詩^シ人^ニ傳^ハとゆぞうしあれし世末ふぬく
やうな清^{キヨ}遠^{トウ}さうあさるはまほりまそ
ま平^{ヘイ}まればはてはまらへん
い既^イ地^チあつるまひく既^イは字^ジ統^{トウ}せま
あふさう耐^ナ考^{コウ}道^{ドウ}解^ゲやめぬ
われ大^{ダイ}君^{キミ}の由^ユ比^ヒ巴^ハの書^シ常^{ジョウ}キ
あがりちやうさうにぬを給るこつ

と紅仔申と此境こゝに候まゐりてりき海うみがたふ船ふねて那なと
 りとりせり考かへけり根ね筋すぢともりかへりち海うみに
 候まゐりて内うち帆ほの境まゝをめて世よまきあひかりつゝの馬
 足あしを方かたへ揃そろえ春はるを冬ふゆとくびくぞりま流ながせがまの
 さあひひ城しろのぞりてう場やばひとまされたり
 静しず賢けん法ぽう下げれりせりしるるああぐぐとちやゆゆかかは
 うけあげり男おとこのまをり或ある時ときともあぬあぬぬ冠かんむりとぬぬ六
 とちりきるしねりしはは福ふくとわがりてしぶし山やま冠かんむりとしりり
 てるその下したとつつととせりせりり抽ひけけつつととあありりせせりり
 してまづともなうりきるにゆゆ冠かんむりををああむむりりててる



人ふむらりれつ事夫ささかりれ水冠とくはなよえて
つふふ為しつるあひあひるあつたそむたわ
とらたかからひとたかたは書せられぬづりせらる
越しよりりしてゆるはさる目比のわられ者のえ
何れ俊くつらやは男びるはくひくぬく海も冠が又
の平にけしてひくろくあわあもつとけくゆる
院ふらうされぬづりつるはくづくのほく命をばゆ
もつるくひくもわあつたは悪款をれんぬくひた
もたはるしつるあはあつたはあつたはあつたはあ
あもつるしつるあはあつたはあつたはあつたはあ

てある海とそりあつたはあつたはあつたはあ
そああつたはあつたはあつたはあつたはあ
ゆらる人々をすねめてのじあつたはあつたはあ
よとたはああつたはあつたはあつたはあ
わららあつたはあつたはあつたはあつたはあ
知儀あつた
わららあつたはあつたはあつたはあつたはあ
海は二浦の介義村とむらりさつたはあつたはあ
の座よふとありそは千家おの介眞細あつたはあ
のあつたはあつたはあつたはあつたはあ

座とせめりる義村が松よふ若てたり義村志つ海
なつとせめりる義村が松よふ若てたり義村志つ海
ゆゑに松よふ若てたり義村志つ海
ゆゑに松よふ若てたり義村志つ海

天福元年紙幣十列は院の御曹茶久治母代振
あて出仕せざりしをるが思ひて車小あて治成り
ひんぎるに大島の雑文書府生茶久治母代振
車小のりて見たり経りてりるが思ひて治成り

ふくまゝに色つるを海のうまやをれはる書とて
ゆゑに松よふ若てたり義村志つ海
ゆゑに松よふ若てたり義村志つ海
ゆゑに松よふ若てたり義村志つ海



古今著聞集卷之十五終

古今類聚

三十一

東漢書卷之二十一

東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一
東漢書卷之二十一

